

平成 24 年度 第 1 回長野市歴史的風致維持向上協議会 記録

日時 平成24年 8 月 29 日 (水)

午前10時～午前11時50分

場所 第二庁舎10階 会議室17

出席委員 14名(1名欠席 土本委員)

赤羽委員、牛山委員、加藤委員、小林委員、笹澤委員、宮下委員、
若麻績委員、中島委員、中村委員、極意委員、阿部委員、伊藤委員、
原田委員、三井委員

1 開 会

定足数の確認

2 市長挨拶

副市長が挨拶

3 委員委嘱及び委員紹介

4 歴史的風致維持向上協議会について

事務局から歴史的風致維持向上協議会について資料1～2により説明

5 会長及び職務代理者選出

会長に加藤委員、副会長に笹澤委員を選出

6 会長・職務代理者挨拶

7 協議事項

(1) 長野市歴史的風致維持向上計画の策定について

・事務局 資料3～4を説明

資料3「長野市歴史的風致維持向上計画(素々案)」に関する提案や修正について、9月21日までに、文化財課又はまちづくり推進課まで提出をお願いしたい。

○ 各地域の状況について

・ 善光寺地区の現状と取組

長野祇園祭について、町が非常に衰退をして商店が消えている現状で、祇園祭の復活を町の負担だけでは不可能であることから、企業の広告を提灯に入れて一体化して行った。また、町名の変更について取組を進めてきたが、一部で理解が得られず途中で止まった。しかし、計画を進めていく中で、町名は非常

に大事であり検討する必要がある。

- **松代地区の現状と取組**

旧町名復活について、10年前から地元でシンポジウム・勉強会など多数開催している。住民にできるだけ周知、喚起をして、意見が一本化されれば、市へお願いしたいという動きになっている。また、「御祭礼」について、昔は玉依比売命神社で巡行をしていたが、それを担う家長や住民の戸数が減ったことで、祭礼に対する負担ができない現状が非常に不安である。特に、中核となる4町は、参加したいが資金負担ができない状況。何とか違う形で伝統的なものを復活、維持できるような手を早く打たなければいけない状況。

松代は2つの大きなブロックにわかれており、昔でいう侍町、町民町がある。天王下ろしは、町民町のお祭であり、天王下ろしの神輿は嘉永5年作成され、担ぐと壊れるため、慎重に取り扱わなければならない。神輿をつくり直すにも氏子自身が負担しきれないため、そのまま放置されている。寄付を集めて実施することも難しい。侍町は、かつて白鳥神社を中心とした御祭礼はあったが、今はなくなっている。

- **鬼無里地区の現状と取組**

祭り開催について、まだ若者が頑張っており、継承はできている。ただ、市街地へ出て行く人が多く、神社を維持する力がなくなっている。私たちの年代は、大切な神社や祭りに関心はあるが、子供の世代になると祭りの費用を払わないという人が増えている。今後、どうやって維持をしたら良いかが課題である。また、白髯神社のお祭のとき以外観光客は少ない。重要文化財白髯神社周辺の整備をし、神社から下の段に花菖蒲の里、参道の脇を流れる宮澤川をホタルの里としている。花菖蒲の咲いている期間中は、白髯神社本殿を開放している。

- **戸隠地区の現状と取組**

戸隠神社では、式年大祭があります。平成15年に柱松行事を140年ぶりに復活させ、3年ごとに行われ今年7月28日に開催した。戸隠には氏子はなく、それに代わる聚長(宿坊の主)が36件あり、式年大祭の行事や柱松行事などをすべて開催する。今のところ聚長2世が育っているため活気はある。今年で4回目の開催となる柱松神事については、上手く行ったと思うが、主催側の人数が少ない状況。この神事を式年大祭に続く一大イベントにしたい。

また、戸隠そば祭は、昭和42年頃から観光イベントとして、当時の商工会が音頭で開催し、そば食い競走であった。しかし、善光寺の徳本行者が戸隠に滞在して、宿坊に泊まったという記録が発見され、蕎麦供養「そば献納祭」として、蕎麦きを神様に奉納する形に変わり、現在、11月頃「新そば献納祭り」という形で続いている。

○質問

質問：4つの重点地区を提案されているが、4つの重点地区の相互の関係はまったく別で、バラバラに計画を策定するのか。

回答：歴史的風致維持向上計画の重点区域は、重要文化財又は国史跡の周辺市街地に広がる歴史的風致の中に設定する。

各地域は、昔から街道や古道で結びつき、それぞれの歴史的風致が形成されていた。現在の市の方針は、多核心連携のまちづくりを推進していることから、各重点区域がそれぞれの特徴を活かしたまちづくりの実現となる取り組みを行いたい。

質問：計画期間は平成25年度から平成34年度の10年間であるが、10年間過ぎても、半永久的に継続するという説明があった。どのように理解すればよいのか。10年間の計画が半永久的にという捉え方が良く分からない。

回答：国と協議により、計画期間を10年とした。一気に20年、50年というスパンは考えられない。10年間中でも、必要な点については積極的に変更し、更に10年経過後も、継続していきたい。

この計画が、まちづくりと文化財行政のマスタープランとして、総合的に検討を進めることで、20年から30年後、更に区域を拡大していくこともあり得る。長い目で見ていただきたい。

質問：重点区域の設定は、長野市にとっては大きなことであり、この協議会の中で議論されて指定されるのか。また、ほかの審議会とも連携しながら進めていくということか。

回答：今回示した案は、現段階の案を提案したものであり、最終段階のものではないことから見直しは可能である。今後、候補にあがっている善光寺、戸隠、松代、鬼無里及び若穂川田地区の意見も聞きながら決定することになる。議会に説明をすることが必要となるので、それを踏まえて改めて最終的に提案をさせていただく。

質問：計画に記載された鬼無里区地域について、しっかり精査されていないのではないか。鬼無里から白馬街道、そこから善光寺へつながる善光寺街道、交通の十字路となる早川道である。塩が運ばれたもう一つの塩の道だった早川道と善光寺街道は十字路という形で鬼無里の道があった。

回答：各重点区域を塩の道や街道でつなぎ範囲を広げるという提案について、調査・研究を行い改めて提案をする。

○提案、意見

提案：善光寺界限、松代も歴史を感じる古い街の名前は沢山あり、実際には何丁

目という形になっている。旧町名の復元は難しい話かもしれないが、歴史的風致維持に大きく役立つのではないか。

提案：4つの重点地区の連携を観光面から考えると、善光寺、松代、鬼無里も祇園祭が行われていることから、同じ時期に開催されるお祭りを回遊しながら楽しむという企画などにより、長野の魅力的なものを全国にアピールすることが重要である。

提案：長野市が広がったが、鬼無里地区や戸隠地区の行事のことを、他の地域の皆さんはあまり知らない。お互いの文化をよく知り、尊敬し合えるようなまちづくりを目指す必要がある。

提案：歴史的風致を活用した観光推進や誘客などでは、食文化の紹介や名物となる食べものの提供などが重要となることから、祭事に食べたものなど食文化の分析が必要である。

提案：鬼無里は、水芭蕉の時期と白髯神社のお祭りのときに大勢の人が訪れている。歴史的風致維持向上計画を策定することを機会に、一年を通じて人が訪れるような新たな価値付けを与えることが必要である。

例えば、東の京、西の京があり、東の京は加茂神社、西の京は春日神社があり、そこに民間群がある。岩下集落の大きな岩の上に石仏が建っており、素晴らしい景観の民家が。道祖神のお祭りは、わら縄を組んで道祖神を祭るもので、大町、白馬からも参拝者が多く来る。

意見：将来的に地域の歴史と伝統を繁栄した人々の活動が展開されていくためには、過疎化、少子化問題及び資金不足などの課題に対するフォローが必要である。

上記のような提案、意見及び質疑応答による協議が行われ、引き続き次回の協議会で協議を行うこととなった。

8 その他

次回の審議会は、11月14日（水）午後3時から開催

9 閉会